



平成26年2月12日
海上保安庁

問い合わせ先

海上保安庁海洋情報部技術・国際課

火山調査官 伊藤 弘志

電話 03-5500-7122

西之島の火山活動の状況（2月11日観測）

2月11日、羽田航空基地所属航空機（MA725 みずなぎ）により、西之島の火山活動の観測を実施した。

1. 噴火の状況

2ヶ所の火口には赤熱した溶岩が見えており、依然として活発な噴火活動が継続していた。南側の火口からは青白色の火山ガスが放出され、北側の火口では褐色味を帯びた白色噴煙が間断なく激しく噴出していた。

南側の火口の西側からは、引き続き溶岩が流出していた。また、同火口の東側からは、噴火初期に見られた溶岩の流出が12月中旬以降停止していたが、今回、再び溶岩が流出していた。

付近航行船舶へは、引き続き航行警報により注意を呼びかけている。

2. 新たに形成された陸地の状況

流出した溶岩により新たに形成された陸地は、2月3日時点と比較して拡大していた。

なお、同乗した東京工業大学火山流体研究センターの野上教授から「火山活動は3ヶ月間ほとんど変化なく極めて活発な状態が続いている。新たな陸地部分はほぼ溶岩からなり、今後大規模な爆発的噴火や基盤の沈降が起こらない限り、相当の長期間は波浪の浸食に耐え存続する可能性が高い。」とのコメントが得られた。

※2月11日時点での形状（暫定値）

- ・東西：約900 m (2月3日時点 東西：約850 m)
- ・南北：約750 m (2月3日時点 南北：約700 m)
- ・面積：約0.45平方km、東京ドームの約9.5倍に相当
(2月3日時点 約0.4平方km 東京ドームの約9倍)



図1 火口から立ち上がる噴煙と東側に拡大した溶岩流（2月11日撮影）



図2 活発に活動する火口（2月11日撮影）

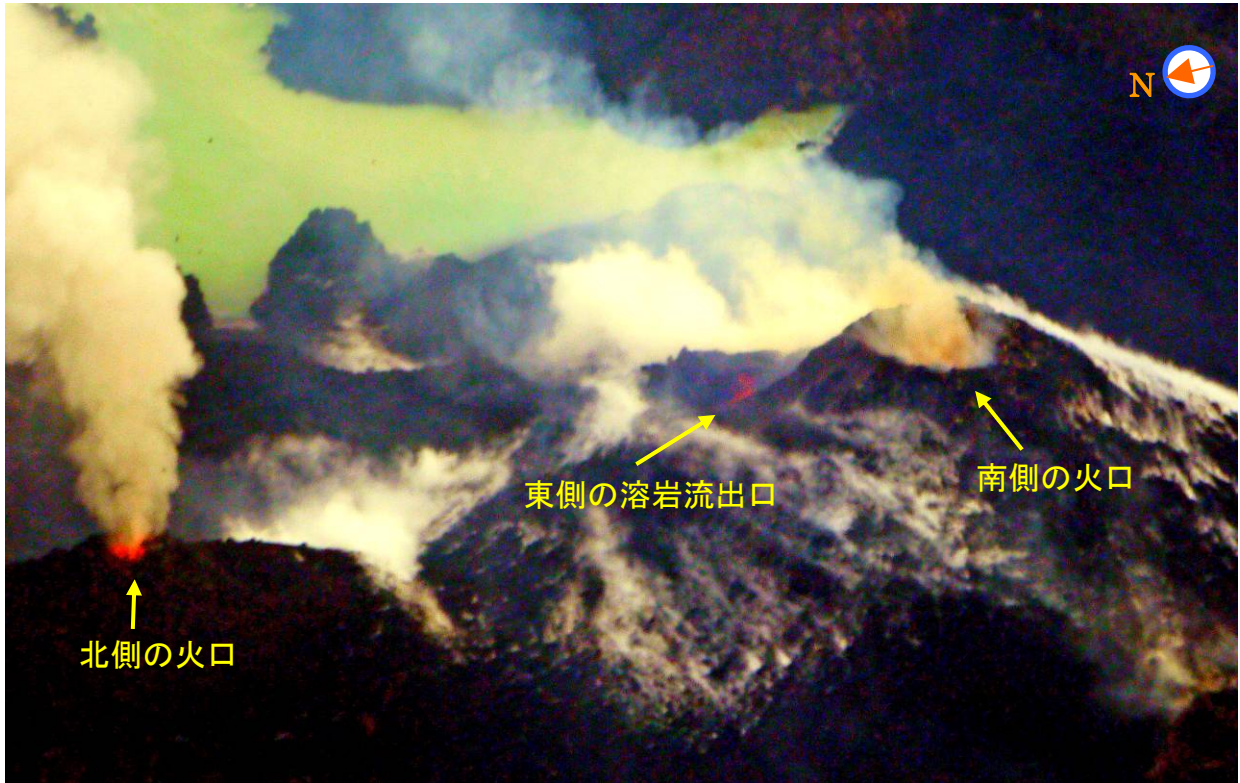


図3 東側へ流出する溶岩流（赤熱した溶岩のコントラストを強調）
（2月11日撮影）

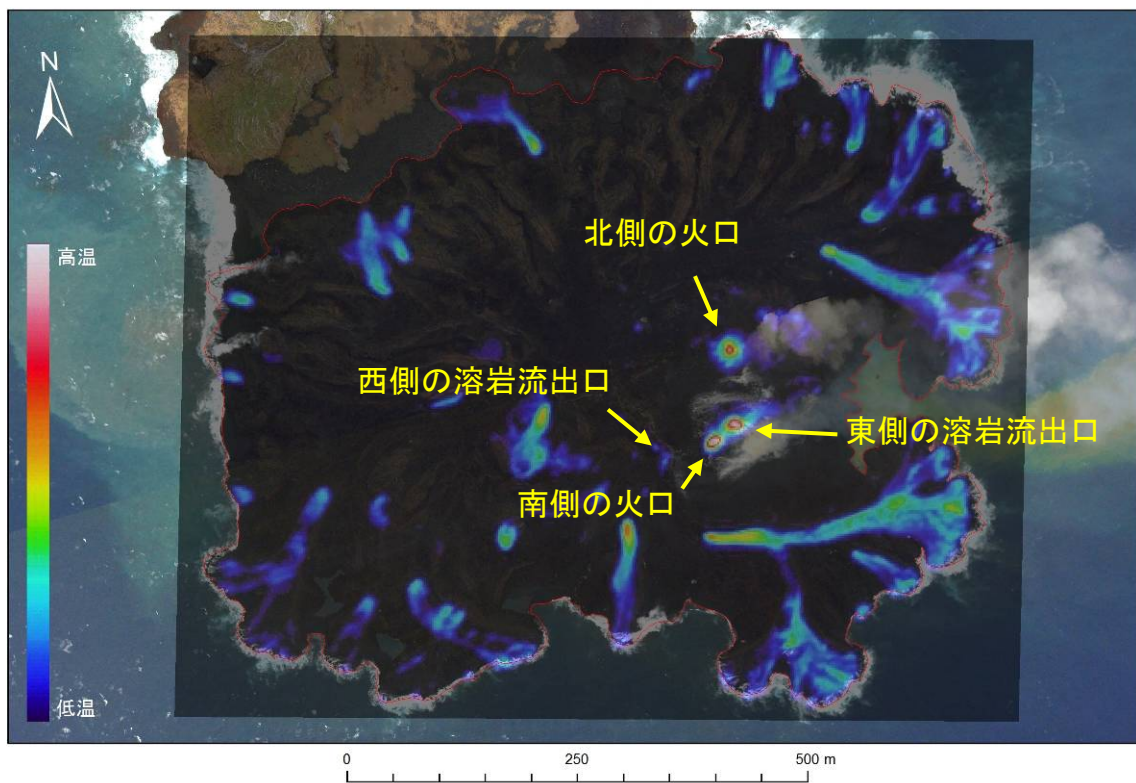


図4 熱画像の解析結果。火口や溶岩流による高温部が認められる。（2月11日撮影）

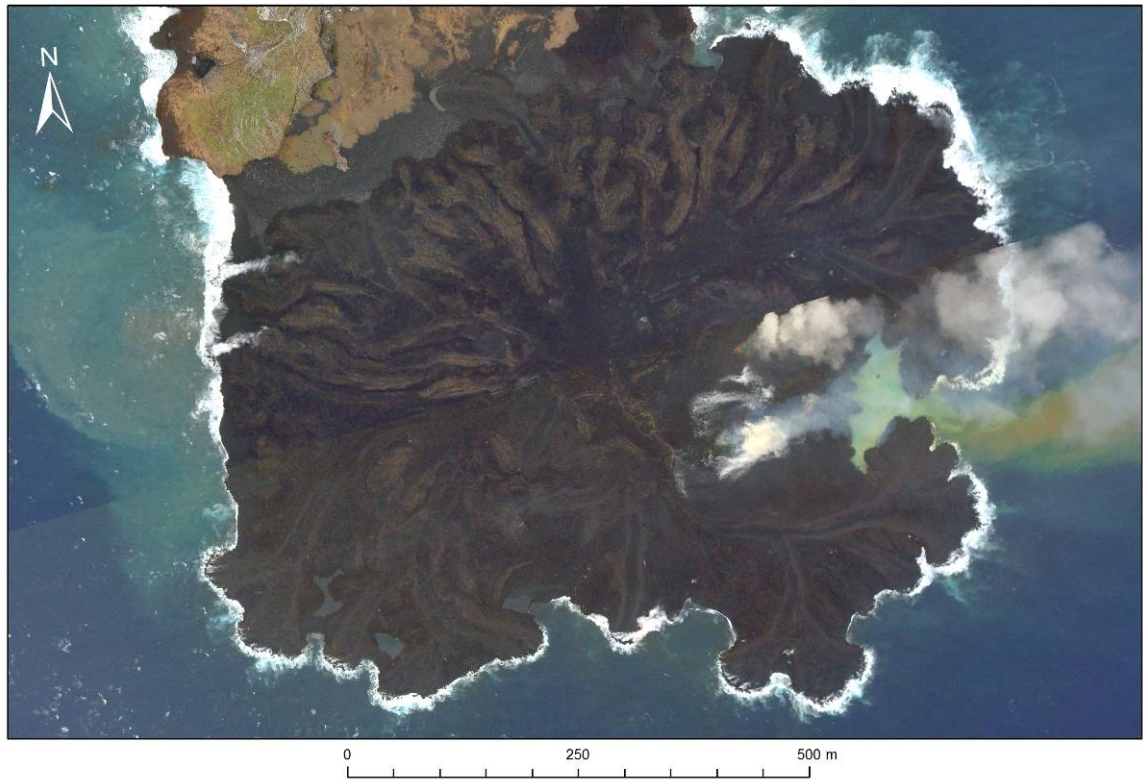


図5 新たに形成された陸地部分の様子（2月11日撮影）

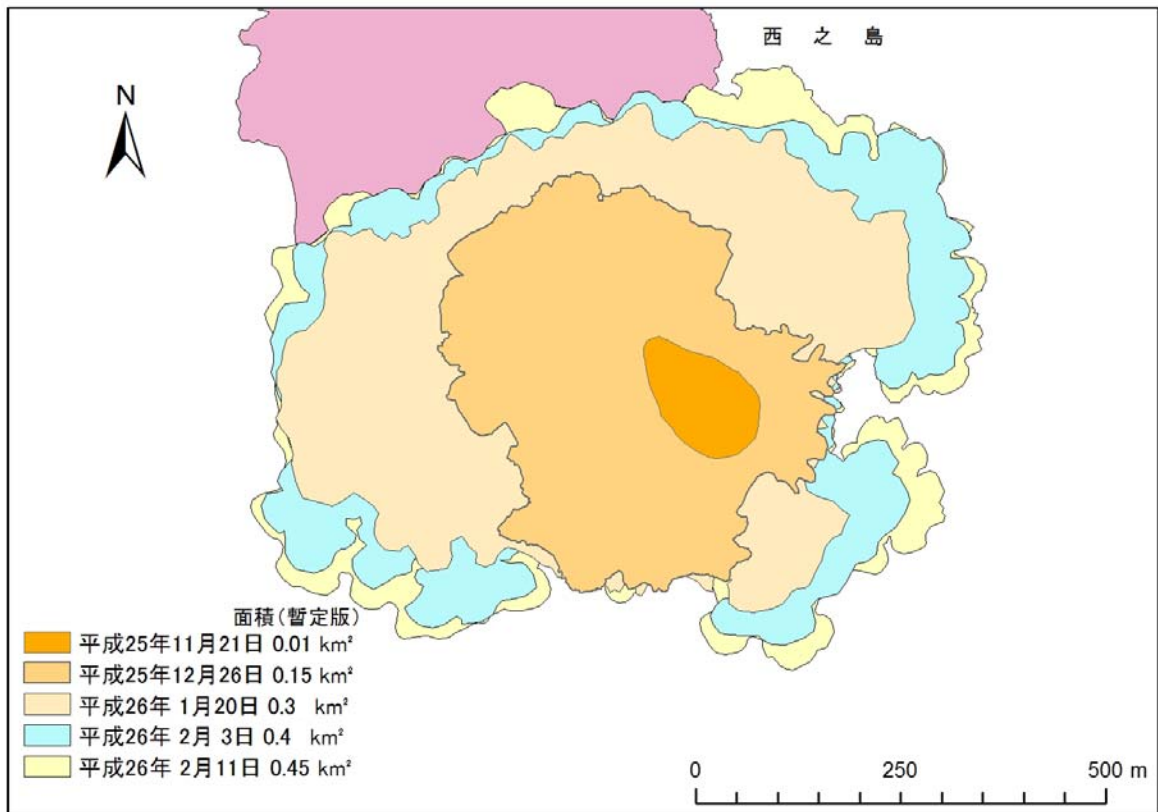


図6 新たに形成された陸地部分の形状変化の様子